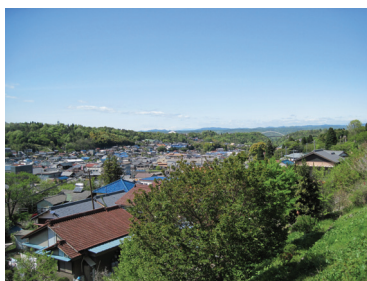


やきもののまちの活性化

〜駄知町(岐阜県土岐市)での取り組み〜

浅野 健



岐阜県土岐市駄知(だち)町は、美濃焼の代表的な生産地で、「どんぶりのまち」として知られている。周囲を丘陵に囲まれ、窯元の煙突、商店などが点在し、陶磁器産業のまちならではの景観を形成している。地場産業の低迷により、人口減少が進む中、若手が積極的にまちづくりを行っている。

地域産業活性化プランを作成

駄知町では、まちの活気の喪失に歯止めをかけ、かつてのにぎわいを取り戻そうと、陶磁器産業事業者、小売業者等が中心となり、まちづくりの委員会を組織し、県及び市の人的支援を受けながら検討を重ねてきている。平成二十年十一月には岐阜県地域活性化ファンド事業費助成金の支援を受け、一年かけて地域産業活性化プランを作成した。プランの作成過程では、駄知の特産品であるどんぶりを使ったどんぶり料理の考案、町内を流れる川沿いのライトアップ、地域資源を回遊する散策モデルコースの設定、地域資源の活用計画、観光客を誘客する拠点施設計画など、様々な事業や計画づくりをこなしてきた。

若手が積極的にまちづくりを展開

その例を紹介すると、町内を流れる川沿いのライトアップは、プラン作成当初は陶磁器製の灯籠を並べて淡い光を浮かび上がらせることを想定していたが、検討途中で灯籠に加えて川沿いにある窯元の煙突に仮設で照明を直接当ててアイデアが出て、メンバーが自ら照明の事業者を手配し、夏祭りの日に実行した。夜空に煙突が浮かぶ風景は幻想的で、灯籠づくりに関わった子ども達やその家族が子どもの作品を探して喜ぶ姿が見られた。



また、この事業を通じて発掘した空き家の中で、戦前に駄知町の陶磁器産業を牽引した企業「カクサ」の三代前の当主が建てた木造平屋建ての別荘風の建物がある。風情のある建物と広大な日本庭が残っており、昨年の晩秋には、メンバーの発案で、庭の草刈をして中央に水を張り、灯籠を並べ、庭の中の木々に照明を直接当ててライトアップを行った。五平餅、豚汁、地酒を用意して地域の人々に振舞われた。この隠れた歴史的資源を地域にお披露目する機会となった。

さらに、メンバーは駄知の特産品である「どんぶり」を活用し、町に縁のある食材を探し出し、どんぶり料理の考案にも取り組んだ。フードコーディネーターの先生の協力のもと、何度も検討を重ねて、地元の大イベントである秋の「駄知どんぶりまつり」の場で、へば(蜂の子)や自然薯など地元の食材を使ったどんぶり料理の試作品を三品振舞った。



旧カクサ邸のライトアップ
地元のメンバーが庭を掃除して水を張り、照明で庭の紅葉をライトアップした。

地域産業活性化プラン作成後の昨年十一月からは、散策路の整備、町内にある陶磁器産業の煙突の案内板整備、マップづくりと三つの事業に取り組んでいる。このうち、十二月に行われた散策路の整備では、町内への周知により百名を超す町民が整備に関わった。

これらの活動は全て一年程度でこなしただけであり、様々な事業にかかるメンバーの意気込みは大したものである。なお、若手が積極的に活躍できる理由として、これらの取り組みを見守る年配の人々の存在があることも付け加えておかなければならない。

継続的に取り組むために

ここであげたのは全て一年程度の取り組みであり、まちづくりを継続して活性化に結び付けるには課題がある。まず、推進組織の強化が必要で、NPOなどの法人格を持った組織に移行することを検討する必要がある。

また、多くの住民に駄知町地域産業活性化委員会の取り組みを周知し、メンバーに加わってもらうことも重要である。例えば、来訪者を案内・おもてなしする人、どんぶり料理を提供する人・店などの取り組み内容についてメンバーを補強することが考えられる。

エコモビリティライフ

朝倉 卓也

エコモビリティライフ(EcoMobilityLife)

愛知県では、二〇〇八年度から「エコモビリティライフ」を推進している。「エコモビリティライフ」とは、エコロジー(環境)の「エコ」、移動の「モビリティ」、生活の「ライフ」をつなげた造語であり、クルマと電車やバス等の公共交通、自転車、徒歩などをかきこく使い分ける、環境にやさしい交通行動を軸とするライフスタイルである。

愛知県は、自家用車と公共交通機関の利用割合が七対三と東京都(二対八)や大阪府(四対六)に比べて非常に高く、マイカーに依存した交通体系である。

県人口の三分の一を占める名古屋市内みると、自動車利用割合は七割(二〇〇一年パーソナルリサーチ調査)。二〇〇六年における部門別のCO2排出量では、運輸部門が全体の約三割と最も多く、一九九〇年との比較では、製造業などの産業部門でCO2排出量が約二十七%減少しているのに対し、運輸部門では約1%の増加となっている。そして、運輸部門のCO2排出量の約八割は自動車に占められているという状況である。近年はハイブリッドカーの普及も目覚ましいが、CO2排出量を大幅に減らすには、自動車の環境性能の向上だけでは限界があり、自動車中心のライフスタイルから転換することが必要不可欠と言われている。

また、高齢者や障害者など交通弱者の移動手段や地域住民の生活の足を確保するためには、自動車と公共交通が共存した社会を構築することが重要である。

自動車に過度に依存することなく、電車・バス、自転車、徒歩などの利用機会を増やすためには、県民一人ひとりの意識と実践が必要であり、県では、二〇〇五年の愛知万博や二〇一〇年のCOP

10(生物多様性条約第十回締約国会議)の開催地として、クルマと公共交通、自転車、徒歩などをかきこく使い分けるライフスタイルである「エコモビリティライフ」を県民運動として取り組んでいる。

エコモビリティライフ(EcoMobilityLife)

愛知県と「エコモビリティライフ」の推進母体である「あいちエコモビリティライフ推進協議会」では、「エコモビリティ」の意識付けと実践を促すきっかけづくりとして、昨年十月から毎月第一水曜日を「あいちエコモビリティライフの日」(エコモビの日)と定め、「エコモビ」のさらなる普及に取り組んでいる。当社では、愛知県からの委託を受けて、「エコモビの日」のPRや県民が「エコモビ」に参加・体験する事業を行っている。

まず、「エコモビの日」をPRするため、十月三日(土)にアピタ長久手店において、十月三日(土)、四日(日)に名古屋まつり会場において、それぞれ「エコモビレンジャー」によるPRキャンペーンを行った。まちづくりの現場に出てみると、関心



エコモビレンジャーによるPR風景
(名古屋まつりにて)

進化するパラサイトシネマ

井澤 知且

未利用、邸利用な都市空間に小さくても新しい仕掛けをすることで、その空間の持つ価値を最大限引き出すパラサイトシネマ。名古屋発のメディアであり、簡便で携帯性の高い装置を使って、これまで多種多様な展開を行ってきた。昨年二〇〇九年は公共性の高い空間でコンテンツにこだわった映像を投影し、注目を浴びた。進化するパラサイトシネマは果たしてどこに行くのであろうか？

パラサイトシネマとは

街の中にある時間の隙間と空間の隙間（この時間の隙間を持った空間の隙間を「サイト＝site」とよぶ）に、小さくても新しい価値を付加する仕掛け、すなわちパラサイト（＝parasite:本来は「寄生する」という意味）を仕掛けると、「Time's Site × Parasite」→価値の無限化という大きな価値を生む。その仕掛けを「シネマ」で展開したのがパラサイトシネマである。例えば、地下街との出入口階段を想定しよう。そこは午後十時になるとシャッターを下ろして使わなくなる空間がある。このような時間的・空間的な隙間に、パソコン、プロジェクタ、スピーカーの三点セットを配置して、シャッターに映像（シネマ）を映すと、階段が観客席になり、ミニ映画館に変わっていく、こんなイメージをパラサイトシネマと呼んでいる。このメディアは名古屋発のものであり、この特色は、ポータビリティに優れ、いつでもどこでも展開することができることである。国内はもとより海外での展開も可能である。屋外なら夜間だが、屋内なら昼間でも対応可能である。「シネマ」というコンテンツを募集することで、クリエイターを結集し、コンテンツ産業の育成にもつながっていく。

パラサイトシネマの歴史

パラサイトシネマは二〇〇五年から本格的に取り組んでいた。初年はオアシス21西側（久屋大通沿い）階段で実施し、翌〇六年はそこに加え、名古屋大学

のIB情報館脇の地下空間への出入口階段で行った。〇七年は第一回リスボン建築トリエンナーレで「パラサイトアーキテクチャ」を発表し、その中の一つに「パラサイトシネマ」を組み込むと同時に、会場施設を使ってパラサイトシネマの上映を行い、大きな反響を呼んだ。その成果を持ち帰り、新宿と名古屋で「第一回リスボン建築トリエンナーレ帰国展」を開催した。〇八年には名古屋城青まつりにあわせて名古屋城本丸内の四か所を実施したが、とりわけ小天守の漆喰東壁面に映した本丸御殿障壁面の映像は、遠くからでも見えるので、ライトアップされた小天守閣と小天守を背景に記念撮影をする人々にとって、意外性と感動を持って迎え入れられていた。これらの活動が評価され、第二十三回名古屋都市景観賞（まちづくり部門）を受賞した。

パラサイトシネマの新しい動き

〇九年三月には都心の集客力のある屋外場所で大画面の映像に挑戦した。実際はミッドランドスクエア南壁面（名駅）および松坂屋南館西壁面（栄）で中部経済産業局の主催で実施した。コンテンツは一分間のショートムービー（音声あり）を公募し、優秀作品を選定して上映した。大映像と音響が一体になれば人々は目を向け集まってくるが、公共（的）空間であるがゆえに溜まる場が必要とされる。

もう一つは十二月に松坂屋のオルガン広場（屋内）で実施した。クリスタルのツリーの背後にあるフロアー壁面にクリスマスらしい映像（雪が降りソリに乗ったサンタクロースが走っていく）を投影した（表紙の写真を参照）。

パラサイトシネマのこれからの展開

パラサイトシネマは名古屋発のメディアとコンテンツであり、簡便で携帯性が高く、都市の低利用スペースを低コストで高い付加価値をつける装置である。大仕掛けでの展開として、大規模ビルの壁面を使って、世界の有名大規模建築（例・エッフェル塔やノートルダム寺院等）をセリムスケールで投影したり、幅の広いビルの壁面を使って、百歩走やスケート、スキーなどの世界記録とセリムスピードで投影していくことが道具さえあれば可能となる。

「白い街」名古屋を「面白いまち」名古屋に変えていくうえで、このパラサイトシネマは有効に働くであろう。また、世界にも通用するメディアでもある。



*パラサイトシネマのクレジットは北川啓介（名工大）十宇野享（シーラカンス）+井澤知且（スペースシア）+名古屋建築会議（略称：NAC）である。宇野氏が都市のアーバンヴォイド（都市の空白）に着目し、そこに付加価値をつける「パラサイトアーキテクチャ」という概念を打ち出し、北川氏と名工大北川研究室の大学院生・学部生がパラサイトをシネマで展開する発想とコンテンツづくりおよびその実施を担い、井澤氏が実施に向けて場所選定と空間管理者との調整を行い、そしてNACが実施をバックアップするという構成である。

が高い人もいれば、薄い人もいるため、どのように告知していくべきかが難しい。しかし、まずは興味をもってもらうことが第一歩となる。堅苦しくなく、わかりやすくすることが重要で、今回はその敷居をレンジャーによって下げてもらい、知ってもらうことができた。十人のうち数人でも関心を持ってもらい、エコモビに取り組んでもらうことが必要である。

愛知県内の「エコモビ」に関する取組事例

県内には、既に「エコモビ」につながる活動をしていたり、これから「エコモビ」に取り組もうとしている自治体や企業、団体などがある。今回は、二つの団体を紹介させていただく。

尾張旭市には、市営バス「あさぴー号」が二〇〇四年から運行している。しかし、利用状況は高齢者の利用が多い。そのため、「あさぴー号」を育てる会がバスの認知度の向上と利用の促進のために、バスの利用状況調査、市民への情報発信としてニュース発行などを行う取組を開始している。また、愛知万博が始まったEXPOエコマネー事業と連携し、そのシステムを実験的にあさぴー号に導入している。EXPOエコマネーのシステムをバスに導入するのは、豊田市に次いで県内で二例目である。

また、岡崎市下山学区では、都市部と中山間地域間で運行する「下山ささゆりバス」の利用促進を図るため、地元のガイドボランティアを活用した「ウォーキングツアー」を行っている。実際にウォーキングツアーに参加させてもらい、下山学区を巡ったが、自然が豊かで歴史ある地区で史跡などの見所もあり、ちよつとした小旅行を楽しむことができた。

市町村が運行しているコミュニティバス（コミバス）の運行状態は、地域によって様々であるが、住民が主体となっており、地域の特性を活かしながら、コミバスをどのように活用していくかを考えて取り組んでいくことが、エコモビにつながるのではないだろうか。

あいち「エコモビ」

上記のように、エコモビを推進していく上で、地域住民の生活の足であるコミバスの存在は欠かせないものである。こうした中で、二〇〇九年一月二日（水）～二月の「エコモビの日」から、「あいちコミバスラリー」が実施されている。

これは、市町村が運行しているコミバスに乗り込んでもらい、車内に掲示してあるキーワードを三つ集めて応募すると、抽選で景品がプレゼントされるものである。県内三十八市町村のコミバスが対象となっており、「コミバスラリー」への参加を通じて、多くの方にコミバスを知ってもらい、利用促進を図ることが目的である。なお、ラリー実施期間は二〇一〇年二月三日（水）～二月の「エコモビの日」までであり、応募期間は二月十日（水）までとなっている。

コミバスは、主に交通弱者のための移動手段の確保として運行されており、路線は生活に密着したルートになっているため、目的地までに幾分時間がかかってしまう場合があるかもしれない。そうではあるが、普段乗る機会が少ないコミバスに乗って、自分が生活しているまちの風景を眺めるのもよい。また、他のまちのコミバスに乗ってみると、新たな発見があるかもしれない。コミバスの運賃は安く設定されており、気軽に乗ることができる。ゆつくりとした小旅行を楽しむ気分、是非この機会に「コミバスラリー」に参加されてみてはいかがだろうか。

